

平成28年度 地方創生加速化交付金(総括表)

	交付金による実施事業の名称	事業概要	事業実績額 単位:円	本事業における重要業績評価指標 (KPI)				本事業終了後における実績値	事業に対する評価
				指標		指標値	目標年月		
1	ぎょうとつと感動！恵みの海活性化事業	漁業者や漁獲高の減少などの問題を解決するため、次世代の人材育成やあさり貝漁獲高の向上及び有明海の干潟保全を図ることを目的として、エイなどの有害生物の除去や調査研究を行う。 また、企業による漁業への新規参入をはじめ、産官学連携による栽培漁業の確立を図ることで、市場ニーズに対応できる海苔やあさり貝の効率的な生産体制を構築し、漁業者の所得向上はもとより、付加価値の高い新たな産業を創出する。	19,684,629	指標①	漁業出荷額の増加	270,000千円	H29.3	296,871千円	あさりに関する事業については、平成27年度から漁獲量向上に向けて土壌の改善などに取り組んでおり、一定の効果が表れているが、最終的な効果が出るまでは時間がかかるものと思われるので、予算を確保しながら、継続的に取り組む必要がある。また、有明海の沿岸市町村と連携して、広域的に事業展開を図ろうとされている点も高く評価される。 海苔の乾燥事業については、企業が海苔の乾燥作業をすることで、海苔生産者の負担軽減にも繋がっており、生産性の向上に大きな効果があっている。今後、さらに乾燥施設の充実が図られれば、海苔の生産量が向上するとともに、漁獲高の向上に繋がっていくことが期待される。 はたき海苔の活用に伴う調査事業については、現段階での調査結果として、良質の海苔粉末に加工することができるとの報告があっており、今後、肥料や食品加工への活用することで、長洲町産の新たな商品開発に繋がることが期待される。 その他、現在、町のふるさと納税の返礼品として海苔を出されているが、長洲町産の海苔が多く採れれば、それだけ多くの量を出すことができ、町のPRにもつながると思われるので、積極的な取り組みを期待する。
2	「金魚のまち」を活かした町魅力化向上事業	町内の観光施設である「金魚の館」内にサテライトキャンパスを整備し、産官学金の連携拠点とすることで、町のブランドである金魚等を活用した情報発信、製造業との連携による商品開発を推進する。また、金魚の館に常駐する金魚マイスターが「おもてなし」の心を持って町案内をし、多くの観光客に喜んでもらえる仕組みを構築する。金魚と鯉の郷広場を訪れた観光客が金魚の館を拠点として町内を周遊できるよう、商工業者と連携して町内店舗に「金魚のえき」を整備し、ICTを活用した金魚の駅めぐりアプリを製作することで、町内での周遊性を高め、地域情報の発信により地域経済を活性化させることで事業者の雇用拡大をめざす。 さらに、金魚と鯉の郷広場内の駐車場を整備し、様々なイベントを継続的かつ有機的に開催するとともに、金魚グッズを展示販売するギャラリーを整備することで商業の活性化を図る。また、東京都文京区にある金魚の卸問屋「金魚坂」にアンテナショップを出店し、「ながす金魚」の魅力を発信するとともに、金魚の産地である「奈良県大和郡山形市」や「愛知県弥富市」と「全国金魚サミット」の会場において、長洲町養魚組合の組合員によるPR、プロモーション映像やパンフレットにて「ながす金魚の魅力」を発信することで、町への集客を図る。	44,445,000	指標①	金魚養殖業新規就業人数	1経営体	H29.3	2経営体	サテライトキャンパスを整備されたが、まだ、運用が少なく、利用に関する周知も弱いので、もっとPRして学生たちをはじめ様々な人が利用できるような改善が必要である。また、今回、新たに駐車場を整備し、利用しやすくなったところであるが、利用時間について、現状では、夕方の5時までしか利用できないため、夜間も使えるようになれば、夜間のイベントなども行うことができるようになる。さらなる来場者数の向上が期待される。 金魚マイスターの育成については、今回、19名がマイスターとして認定されるなどの成果が出ており、今後、町内の小中学生は、全員、自信を持って町のPRを他の地域でできるように、金魚マイスターの認定を受けるような事業の展開も期待する。 次に、今回、金魚のえきめぐりとして、町内の商店等を巡るような取り組みを検討していたが、実現が難しくなったため、内容を見直して、町のPRを図る「ぎゅと長洲」のアプリを作成してあるが、新しいものを作ったときは、情報発信やPRとしてサイトの頻繁な更新などが必要であり、ウェブサイトがあることをもっとPRして周知することが必要である。また、現在、別事業として取り組んでいる「海辺の金魚のまち長洲プロジェクト」において、金魚を活かした町のPR冊子やサイト、町内を巡るツーリズムコースなどを検討しており、それとリンクさせて相乗的に長洲町をPRしていくと効果的である。 そのほか、金魚を活かしたまちづくりとして、東京の「金魚坂」との連携が図られるとともに、愛知県弥富市における「全国金魚サミット」の開催や町で開催した「招き猫展」など、金魚を活かした取り組みが図られており、今後も、さらなる事業の展開が期待される。
3	ひとが輝くまちづくり 人材発掘・育成プロジェクト（広域連携事業）	地域の人口減少や少子高齢化といった課題を打開するため、首都圏や福岡県からの人の流れを作ることを目的として、移住希望者の多様なニーズに応えることができるように仕事情報や子育て支援、医療・福祉などのワンストップを図り、受け入れ体制を構築する。 また、移住を受け入れるため、空き家等対策協議会を設置して、空き家の利活用を図るとともに、長洲駅南側などの居住地区に宅地開発を誘導する「居住誘導計画」を策定し、宅地化の整備促進を図る。	13,356,000	指標①	空家バンク登録件数	1件増	H29.3	0件	空家バンクの設立については、当初計画より設立時期が遅くなってしまったことで、数値的な目標が達成できていないが、現時点においては、空家バンクを設立して運用を始められており、本事業を実施した結果がでているものと認められる。今後、空家バンクを運用していくにあたり、登録物件等については、町でしっかりと確認してから運用につなげていかなければならない。また、町内における宅地分譲も進んでおり、移住への効果が出ていると思われる。 次に、移住・定住について、移住者の気持ちとしては、「子どもの就学前に場所を決め定住したい」や「移住地で就業があるのか」などが挙げられ、宅地整備をはじめ、空家のリノベーションやソフト産業の充実に必要など、今後も継続して移住者の受け入れ態勢を整えることが必要となる。長洲町は、コンパクトな面積に必要なものが収束しており、都会にない資源もたくさんあるので、「都会にないものは、長洲町にある！」などのコンセプトで移住定住の促進を進めていくことを期待する。